

学 生 ・ 研 修 医 部 会

Section editor 中村明澄 (筑波大学附属病院 総合医コース シニアレジデント)

夏期セミナーを終えて

日本家庭医療学会学生・研修医部会第15回夏期セミナー実行委員長
渡辺 慶介 (信州大4年)

僕の知る限り学生がセミナーの運営に深く関わるようになったのは2000年からで、実行委員長なる係りが設けられたのは2001年からである。従って僕で3期目にあたるわけだが、今回去年までとは大きく違う点があった。それはセミナーの企画の段階から学生が中心となってやるという点だった。2001年から筑波大・聖マリアンナ大・信州大を中心に、ほぼ同じ中核メンバーで運営に関わりノウハウを蓄積してきたことを背景に、昨年千葉での夏期セミナーが終わった時点から「来年はいよいよ自分達で企画からやるのだ」という意気込みで取り組んできたのが今回の夏期セミナーだった。

開催への第一歩として、12月上旬にセミナースタッフの合宿が長野で行われ、ここで全日程の基本方針が決まった。まず、初日は家庭医療とは？という概論、ベテラン・若手・女性など様々な家庭医の話という従来の企画だけでなく「医者以外の人にもレクチャーをしてもらおう！」という企画が新たに加えられた。この結果は、講師としてお呼びした前野さんの感動的な話によるところが大きいとは思いますが、スタッフ一同非常に満足いくものだった。二日目は、家庭医に必要な臨床技能というテーマで去年までと大枠の変更はなかったが、低学年の参加者を意識したセッションを加えたり、事前の予習資料を作成するなどいくつか新しい試みも行われた。三日目は、「家庭医を目指すうえで遭遇する悩みや問題点をクリアするた

めのセッション」という基本方針が決まり、キャリアディベロップメント、新研修制度、低学年向けセッションなどが新たに取り入れられ、企画面では最も活発な議論が行われた。

その後、8月の開催までの9ヶ月間は本当にあっという間であった。スケジュールの遅れや、連絡の不行き届きなど明らかに自分たちの責任からくる様々な問題や、事務処理を新たに旅行代理店に任せただけなどからくる不測の問題が次々ともちあがり「うわ、どうしよう」と思うことも多々あった。講師の先生など関係者の方に迷惑をおかけした時もあり、非常に心苦しいこともあった。それでも、その全ての過程が、自分にとっては成長のチャンスと感じられたし、何よりもわくわくするものであった。我慢強くサポートしてくれた前野先生を始めとする先生方、一緒にがんばった仲間に対して心から感謝している。

セミナーの内容については別途記事もあると思うのでここで書くことは遠慮させていただくが、一つだけ記しておきたいと思う出来事があった。それは、「僕たちと一緒に、来年の夏期セミナーを創ってみたいという方はご起立ください」と新実行委員長に決まった加藤君が呼びかけた時の事だ。彼の呼びかけに対し、最初誰も反応しなかった時はどうなるかと本当に気をもんだが、一人立ち、二人立ち、五人が十人に、十人が三十人になったあの瞬間のことを僕はずっと忘れないと思う。

夏期セミナーを終えて

日本家庭医療学会学生・研修医部会第15回夏期セミナー実行委員

大塚 亮平 (聖マリアンナ医科大学6年)

私たち学生スタッフは昨年のセミナーが終了後すぐに、スタッフ同士で反省会を開き、『このセッションは好評だったとか、この仕事の準備はもっと早めにやったほうが良いのでは』等と話し合い、参加者のニーズに合ったより良いセミナーを作ろうと決意を新たにしました。12月には長野にて泊り込みで下見と打ち合わせを行い、大まかなスケジュールやセッション内容を決め、各自勉強やクラブの合間を縫って8月のセミナーに向けて少しずつ仕事を進めてきました。信州、筑波、東京のスタッフが話し合いの場として使うメーリングリストでのやりとりは一年中途切れることがありませんでした。

セミナー当日は宴会の合間を縫って次の日の打

ち合わせを行ったりと、忙しい3日間となりましたが、講師の先生方と参加者の皆さんのお陰で大成功に終わり、スタッフとしても大変満足できるものとなりました。この一年間、スタッフのみんなと一緒に仕事ができ、とても楽しかったです。セミナー当日、参加者の方からいただいた『楽しかった』『来年も参加したい』の声は、今年度スタッフの達成感と共に来年度スタッフへの激励となることでしょう。嬉しいことに、来年度は北海道から九州まで30人ものスタッフが協力してくれることになりました。家庭医ブームの大きな原動力となっているこの夏期セミナー、来年はどんなセミナーになるのか、今からとても楽しみです。



(後列左より) 近畿ツーリスト松井隆さん、加藤光樹、吉本尚、三富樹郷
(中列左より) 渡辺憲弥、清田実穂、井川理映子、大塚亮平
(前列左より) 中村明澄、前野哲博、加藤はるか、並川涼、井田耕一、渡辺慶介